

令和2年度学校評価資料

令和2年度学校評価 指導の重点についての教職員グループ別検証

学校評価に係る教職員・生徒・保護者アンケートについて、教職員アンケートでは肯定的回答が前年比減の項目が多いのに対し、生徒・保護者アンケートでは前年比増の項目が多い傾向が見られました。教職員のアンケートについては、新型コロナウイルス対策による様々な制限のため、授業や学校行事が年度当初の計画より修正が必要だったことによるものです。以下は、学校が本年度重点的に取り組んできた8項目について、アンケートを踏まえながらより詳細に検証したものです。

(1) 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育	成果と課題	改善策
①時間厳守や体幹保持など「きびきびした生活」・美化作業、環境整備など「すがすがしい環境」、挨拶や敬意など「さわやかな仲間」をはじめとして、安全安心で規律ある教育環境を確立する。	○新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業日のため、4月の自転車点検は実施できなかったが、保護者と連携しての点検や夏季休業日前の点検を実施できた。木曜日の放課後等、部活動を実施しない日に交通立ち番が実施できた。 ○コロナ禍の中で大人数での集合が困難な中、避難訓練を3回実施した。集合時間となるべく短くするために、講話・講評を放送で行ったが、集中して話を聞くことができたので、来年度以降も講話は放送がよい。抜き打ち避難訓練は清掃の移動時間帯に行い近くに教員がいない状況だったので、生徒自身で考え行動するきっかけになった。 ○▲チャイム着席の徹底、ユーバーサルデザインを意識した掲示など、授業中に気が散らないように教室環境を整えている。一方で、各授業でのあいさつがいい加減（声が小さいなど）であっても流している場面がある。	○自転車点検は4月は保護者点検とし、7月に変形自転車などを指導し、夏休み期間を利用して、修理・修繕を行つ。自転車の実地訓練は日頃の指導により防げるのでスリム化を図る・継続した立ち番活動や、地域・P.T.A・警察との連携を今後も続ける。廊下や階段で滑り転倒した生徒がいたので、今後も安全に落ち着いた生活が送れるよう指導する。 ○避難経路について、校舎が崩れていない場合を想定しての避難経路とし、有事の際には、その場の判断というごとを教職員・生徒が共通理解する。 ○年度当初に「簡単清掃」の基準を決めておく。安全点検をローテーションで行う。 ○学年内で除去対応が必要な日は職員で確認を取り、ヒヤリハット事案を全職員で共有し、安全な学校給食になるよう取り組む。 ○極力密にならない種目を選択し、健康面でスペースを確保しながらでも行うことができる種目を行ふ。講演会については年度当初の早い段階で計画を立てる。
②安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確認により、事故に即時即応する。		
③体育・スポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせることにより、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。		
④計画的な健康教育により、食・アレルギー・感染症等・飲酒喫煙薬物乱用防止をはじめ、情報進展に伴う事件・事故、防災、環境保全、国民保護等、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する実践力を育成する。		
⑤家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握・改善や実践的な予告なし避難訓練、自転車点検・自転車保険への加入等を通して安全に対する意識の高揚を図る。		
(2) 読りを感じる学校・学級集団	成果と課題	改善策
①学校生活の課題について、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働きかせ、話し合い、合意形成、意思決定して改善することを通じ、課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。	○例年に比較すると、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、グループ活動や席を近づけての話し合いの場はかなり減ったが、その中でも学活や総合、行事などの内で、お互いに意志を確認し合い、意見を共有することができた。 ○コロナウイルスの影響で、学校外での活動の場面はかなり減少したが、各専門委員長の企画により様々なイベントを行うことによって、多くの生徒が意欲的に学校生活に取り組むことができた。 ○▲コロナウイルスの影響で体育祭、文化祭などの行事を縮小したが、コロナ後も今年度の形で行うのが望ましい。ただし、行事の縮小によって生徒同士の関わりや生徒が主役となる機会が減るため、教師が学活や授業などを工夫することによって生徒同士の関わりや生徒が主役となる機会を積極的に作っていく必要がある。	○今後もコロナウイルスの影響でグループ活動や席を近づけての話し合いが困難であることが予想される。そのような状況下での対話的な授業の方法を考えていく。 ○各委員のイベントに対する意識がイベントの種類や学級によって異なるため、しっかりと取り組みの意義を生徒に伝えた上で行う。また、校外での活動に関しては、今年度の形を基としながらも、その年ならではの形を検討する。
②生徒会・教科係が生活・学習の諸課題について協力・協働して改善する活動を通して、学校内外の生活・学習マネジメント能力を育てる。		
③学校行事の選択と集中を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協力して課題解決したりする主体的、実践的な態度を育てる。		
④ノーブル活テー（木曜日と土日いずれか）による心身ともゆとりのある中で、効率的、効果的に部活動を行い、自発的・自主的に心身を鍛える生徒を育成する。		

(3) 存在感や成就感を大切にした生徒指導	成果と課題	改善策
<p>①生徒が存在感を実感する中で自己指導力や人間関係を高めるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら命と人権を根幹に据えた開発的生徒指導を進めます。</p> <p>②学年担任制による多様な相談体制、ICTによる迅速な調査、スクールカウンセラーや連携など、ガイダンスとカウンセリングの双方から、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・対応する。いじめアンケート、生活ノート等は、複数の目で点検をし、小さな変化を見逃さないようにする。</p>	<p>○▲対話することを基本とし、生徒の内面理解を進めるための生徒指導や生徒自身が存在感を感じることができる取り組みを進めることができた。また、学習指導と関連づけながら、言葉使いや命（人権）に対しての指導を行うことができた。しかしながら、新型コロナウィルス感染防止の観点で様々な教育活動が制限される中、仲間作り活動や、集団の中での自分を評価される機会が少なかった。</p> <p>○▲日頃の関わりを大切にしながらの生徒指導を継続することができた。日頃の生徒の言動を観察し、適切な指導につなげることができた。また、日々のノートなどの情報から生徒情報の共有を図り、教師間・保護者と同一歩調での指導に努めることができた。しかしながら、学年担任制などによる適切な連携方法について、生徒への丁寧な関わりにつなげため今後も、事案に対して即時対応ができるフットワークの軽い組織を今後も作っていくことが必要である。さらに個人・集団をより分析し、指導につなげるために、Q1の効果的な活用が必要である。いじめアンケートについては、即時に対応し、気になる事柄についてはていねいな聞き取りと事実確認を行い、ていねいな対応につなげることができた。</p> <p>○年度当初方に方針を確認し、必要に応じて年度途中であっても方針を確認しながら、指導を進めることができた。また、ケース会議を中心に子どもへの関わりについての事例研修を深め、組織力向上につなげることができた。さらには、医療につなぐ際にも日頃の生徒の様子をていねいに伝えることができた。</p> <p>○いじめ基本方針を基に、全職員による共通理解を深め、いじめの積極認知と早期発見・早期対応に努めることができた。また、生徒会役員と連携し、いじめノックアウト宣言作成の取り組みを進めることができた。</p> <p>○講師を招聘しての情報モラル講演会を開催するなど、情報機器の使用についての注意喚起を行うことができた。また、日頃からSNSの危険性についての指導を継続し、事案については保護者と連携し、対応することができた。しかし、情報機器取り扱い3ヶ条の見直しなど、生徒会活動と連携しての取り組みを進めることはできなかった。</p>	<p>○安心・安全な学校生活実現のため、環境整備や日頃の生徒の様子を多くの目で観察し、迅速かつ適切な支援を行なう。また、一方的な授業展開にならないよう、各教師が工夫することで、充実した授業展開を構築する。</p> <p>○不登校生徒等への対応については、ケース会議を中心に、支援体制を協議し、組織で対応することを基本としていく。また、必要に応じて、今後も各機関と連携を密にする。また、Q1を年間3回実施（各学期）することで、より深く対応を分析する。</p> <p>○指導方針を一致させるため、生徒指導委員会での確認事項を、学年会議や打ち合わせを活用し、全職員での共通理解を図る。</p> <p>○日頃の生徒との信頼関係の構築が大切であることから、何もないときの生徒指導（二〇時対応）を徹底する。また、年度当初にいじめの定義について職員・生徒で共通理解を行い、他者理解を進めるよう、指導する。また、年度途中にあってもいじめ方針について、共有し、年間を通して、いじめへの意識を高く持てるよう、指導を継続する。</p> <p>○情報モラルに関する指導については常に新しいものが登場するので、教師側の指導が生徒の後追いになってしまふ。その点を解消するために、生徒への講演会だけではなく、教師が最新の知識を得るための研修を実施する必要があると考える。また、情報機器の取り扱いについても生徒会活動と連動し、全員が共通して守れるルールを作っていく活動が今後も必要である</p>
<p>③生徒指導方針、いじめ防止基本方針を発信し、地域と一緒に生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携しケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。</p>		
<p>④学校基本方針や生徒会「いじめノックアウト宣言」によりいじめの定義や実態を啓発し、家庭・地域・関係機関と連携したいじめ対応を進める。また、いじめを積極的に認知し、早期解決を図る。</p>		
<p>⑤情報機器の使用時間や使用目的について、「情報機器取り扱い三箇条」など生徒会活動や関係機関との連携によりコミュニケーションや個人情報、肖像権や著作権の権利を正しく理解させ、ネットトラブル防止等への取り組みを推進する。相談機関について生徒・保護者に周知する。</p>		
(4) 豊かな人間性・社会性を育む道徳教育、人権教育	成果と課題	改善策
<p>①他者や自己との対話による「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体で、自己的生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるために基盤となる道徳性を養う。（評価を含めたローテンション授業の実施 保護者・地域への公開）</p>	<p>○▲前年度の評価研究に続き、今年度は他者や自己との対話による道徳の授業研究に力を入れ進めていくことができた。その中で、全職員が授業に関わるローテーション授業の実施や講師を招き研修を行うことで授業力向上が図れた。また、道徳の授業で行く人権学習においても系統立てて実施することができた。課題としては中心発問に時間を割き、ねらいにせまることができる授業をさらに研究し、よりよく生きるために基盤となる道徳性を養う授業を目指していく。</p>	<p>○ローテーション授業の実施により他の教師の授業を観ることができるように变成了ので、互いに授業見学し授業力を高めていく。また、今後も講師を招いてその年度にあったテーマで研修会を実施していく。</p>
<p>②人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。</p>	<p>○体験型人権学習活動は、集団活動や校外学習の実施が困難であったため、密にならない定員で全校生から募集し、合計10回活動した。「漫才/ダンス/撮影編集」の各グループに合計45名の生徒がスタッフとして登録し、「漫才研修会」「校内漫才審査会」「文化祭でのダンス/漫才発表」「篠山警察での漫才披露」の場を経験することができた。「人権通信」を12回（1月現在）発行して、人権教育の啓発に努めた。課題としては、来年度、今年のようなコロナ禍の状況が続いた場合、多人数での活動や参加の呼びかけが困難になると予測される。学習活動の雰囲気が低下しないような工夫が必要である。</p>	<p>○人権学習活動について、「リーダーを中心とした呼びかけ形式によるオーブン参加」「年間計画の中で、人権教育担当者以外の教職員も講師として割り当てておく」という方法は、そのまま継承。「ネットやzoomを使った他校との交流」などの工夫をする。</p>
<p>③地域に根ざした伝統芸能や多様な芸術を鑑賞したり、地域貢献活動に参加したりすることにより、ふるさと「丹波篠山」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。</p>	<p>○コロナ禍で地域との交流が難しい中で外来種（菊）の駆除を通して篠山の自然について知ることができた。学校外に出かけることは難しかったが、道徳などの各教科のなかで、外国の文化や伝統について知識を深めた。今後どのような状況になるかがわからないが、できる範囲で活動する。</p>	<p>○他の行事においても地域に貢献できる活動があれば、子どもにも大人にも負担になりすぎないよう配慮しながら、可能な範囲で参加していくことも考えていく。コロナ禍の中で何ができるのかを再度検討する。</p>

(5) 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育	成果と課題	改善策
①将来的職業構造の変化や新産業の創出も踏まえつつ、学ぶことと将来や社会とのつながりの中での自己の生き方を考え、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。	○体験学習について、夢プランへ参加し、市内の高校の学習内容や様子が分かり、進路決定に対するイメージができた。また、コロナ禍ではあるが、地元企業が来校し、プレゼンテーションのスキルを高める授業を行うことができた。企業訪問を通して職場体験や地域の方との触れ合いができた。	○1・2年生を対象にした情報が高校から多くきているので、校内での掲示方法を考え直す。 ○キャリアノートは高校に引き継いでいくので、キャリアノートの活用をより系統的に考えていく。また、小学校からのキャリアノートの引き継ぎを確実に行う。
②生徒が能動的に生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを有効に活用し、キャリア形成に資する個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。	○学活や総合を利用して、進路決定までの流れを明確にし、計画的に進めることができた。また、進路に関する情報を調べて、共有する時間を設定することができた。 ○小学校からのキャリアノートを有効に活用し、新たな進路学習の資料を継ぐことができた。また、過去の学習を、中学校の進路学習や生徒指導に役立てることができた。	○自ら行動して進路を切り開こうとする意識を高めるため。調べ学習や発表をより充実させる。
③ライフプランを含めたキャリア教育を通じて、主体的に生涯の生活を設計し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）や、社会における自分の役割、自分らしい生き方について考えさせる。		
④体験活動のねらいを明確にし、事前事後指導を充実することを通して、地域の人々とつながりを深め、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、社会の一員としての自覚、社会参画への意欲、態度を養う。		
(6) 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善	成果と課題	改善策
①授業スタンダード（予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り）に基づき、各教科等の見方・考え方を観察ながら「個」と「集団」を思考が行き来する指導を通じ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	○▲授業スタンダードで流れの提示等の定着が見られるが、教科の特性に合わせた工夫が必要である。各教科で工夫を凝らした予習課題が受けられる。予習復習をする生徒が71%であり、昨年度より7%上昇、全国平均より上回っている。家庭学習に関してはGIGAスクール構想も踏まえて、より効果的な出題を考える必要がある。部活動がある生徒（1、2年生）の放課後学習や質問日の設定を工夫する必要がある。	○授業スタンダードについて、指導と評価の一体化を目指した具体的な方法を確認し、授業を進めること。
②知識・技能が他教科等や生活で活用できるよう、見通しのある予習・振り返りのある復習を含む家庭学習に係るガイドラインや課題の個別化、放課後学習の充実を図る。	○丁寧に対応することで自信をつける生徒もあり有效地に少人数が進められているが、少人数であるが故に、個々の生徒の学習意欲が学習集団のモチベーションに反映される場合がある。	○少人数授業に関しては、単元の特性等を踏まえて、希望性習熟度別か無作為に人数を半数にするなど検討する。
③新学習システムを活用した少人数指導や補助的な学習、発展的な学習など、系統性を重視したつまずきの解消を図り、個に応じ個ができる指導内容・方法の授業改善を進める。	○▲「個別の指導計画」について、特別支援学級では通知表とリンクさせたことにより、「目標—指導—評価」の一体化がすすんだ。通常の学級では、サポートファイルの目標にもとづいて、学期ごとにスマーリステップでの支援を考えることができた。支援や配慮の内容について、全体で共通理解していくことが課題である。また、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進める必要がある。	○通常の学級における「個別の指導計画」では、「誰が」「何を」「どのように」行うか等、具体的に明記することを徹底するとともに、学期はじめに学年別一覧で共有できるようになる。また、授業のユニバーサルデザイン化のために、新学習指導要領で示された教科の特性と生徒の特性に応じた支援方法について共通理解するための研修を実施する。
④特別支援教育を中心とした教育支援計画における合理的な配慮、及びユニバーサルデザインを全教職員の共通理解のもと組織的に推進し、豊かな人間関係づくりとともに伸びる力を育成する。	○▲コロナ禍で制限がある中ではあるが、言語活動によるコミュニケーションは意識して授業ができている。情報活用に関しては、GIGAスクール構想で大きな変化に対応できるよう研修を進める必要がある。	○クラウド内でデータが更新できるタブレットPCの活用した家庭学習の検討や、それに伴う教職員の研修を早急に進めていく
⑤授業時数を確保し、言語能力（英語によるコミュニケーション能力を含む）、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現在的な諸課題に応じる資質・能力を教科横断的な視点で育成する。	○⑥読書への興味を深めるとともに、創意工夫して読解力向上の取組を推進する。	○学校図書館について、教職員の個人的な利用を推奨するとともに、学習指導要領に則り、利活用を意識した授業作りを推進する。

(7) 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール	成果と課題	改善策
<p>①ホームページ、学校により、オープンスクール等により、教育活動の目標や内容を具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。</p> <p>②生徒会と学校地域運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来の糸口となる、夢・やりがい・やすらぎ（安全安心）を体感する教育を進める。</p> <p>③学校地域運営協議会の協力のもと、教育課程の評価改善や、人的的支援などのカリキュラムマネジメントを効果的に進める。</p> <p>④小・中・高等学校の連携を密にし、児童生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての学びと育ちの連続性を確立する。</p>	<p>○ホームページに日々の授業や生徒の取り組みがタイムリーにアップされ、保護者、地域の学校への関心、学校理解につながっている。</p> <p>○「四つの力委員会」に生徒会が参加し、意見を積極的に言った。学校生活・授業等についての要望などを伝えることで対応していただけたり、改善していくことにつながった。コロナについて様々な考え方を交流する中で、安全に考慮しつつ、新しい観点で教育活動を考え、実施できた。</p> <p>○学校運営協議会委員に、新たに、ふるさと大使まるっちゃん（株）いなかの窓代表取締役を加え、人権ミライエ・プロジェクト「人権啓発漫才」や将来にわたって役立つプレゼンテーションの授業を実施し、イベント的ではなく継続した学習支援が実施できた。</p> <p>○▲小中連携の在り方として、更に方法・内容等の見直しと徹底を図っていく。</p>	<p>○11月のオープンスクール期間は、来年度も3日間の午後とし、コンパクトにする。保護者や地域への学校からの発信等に、1人1台パソコン等の有効活用を検討していく。</p> <p>○新型コロナのため、第1回会議は紙面表決を行うとともに地域人材を活用した授業支援の規模を縮小をした。今後、一人一台パソコンの導入を有効に活用し、地域と生徒を結びつける授業を検討していく。</p> <p>○小中連携での取り組みとして、「これはしっかりと取り組んでいこう」というものをより精選し、9年間の系統立てた取り組みを通して、成果が上がるものをさらに検討、協議する。</p>
(8) まごころで子どもとともに学ぶ教職員組織	成果と課題	改善策
<p>①教育は“今日行く”を行動の基本におき、生徒・保護者・地域住民のつぶやきに敏感に気づき、複数で即時即日対話し、課題と改善の方向性を共有する。</p> <p>②兵庫県資質向上指標により育成目標を重点化し、学年担任制、一人一研究授業を通じ、保護者や地域の期待に応えられる豊かな人間性、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。</p> <p>③法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、情報化、グローバル化など社会の変化に対応した教育観を培う。（職員申し合わせ事項の実行）</p> <p>④校務の効率的・効果的な実施、会議の効率化（会議資料の事前配布）、ノーブル活動（木曜日と土日いすれか）や定時退勤日の徹底、記録簿によるタイムマネジメント、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。</p>	<p>○生徒指導・学習指導・学校行事等において、授業観察や生徒理解による気づき、保護者や地域から的情報収集に努め、事案等の発生の際には、即時対応・情報共有・保護者への連絡に努めていることが、保護者や地域への信頼にもつながっている。</p> <p>○教職員の使命を自覚し、教職員全員が豊かな人間性の涵養に努め、実践的指導力の向上をめざし、日々活動している。そのことで、生徒・保護者との信頼を築いている。「職員申し合わせ事項」を、各自さらに意識をして職務を行う。</p> <p>○部活において木曜日及び土日どちらかをノーブル活動にすることは浸透している。部活動運営、部活動指導員の活用等について今後さらに検討の必要がある。</p> <p>○行事や内容の見直し・精選により、業務改善につなげられた。また、教育課程編成の工夫等、来年度に向けた方向性を検討した。</p>	<p>○「会議資料の事前配布」に関しては、できるだけ共有フォルダの中に事前に入れる、事前に配布する。要点のみの提案、検討事項がどの点であるかを明確にした提案を心がける。</p> <p>○生徒指導や学校行事等の関連で定時退勤できない木曜日はあるものの、少なくとも週1日は定時退勤できるように校務の計画的・効率的な遂行、タイムマネジメントを業務改善と並行して行う。</p> <p>○1人1台タブレットを利用した校務・業務の効率化・情報化を進める。</p> <p>○生徒の教育の効果を考慮しつつ、必要なこと・あまり時間をかけなくてもいいこと・削除していくことを担当者で協議し、来年度の年間計画に繋げる。</p>

令和2年度学校評価資料 令和2年度後期教職員自己評価アンケート

前年比増△減▲

内容	回答百分率	平均値推移							
		4	3	2	1	R2後期	R2前期	R1後期	H30後期
I 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育	1 学校は、食育指導、歯科保健指導、喫煙防止教育、薬物乱用防止教室などの健康教育を計画に基づいて確実に行っていている。	37% 59% 4% 0%	3.3 ↘ 3.4 ↗ 3.3 ↙ 3.3 ↘ 3.1 ↘ 3.2						
	2 学校は、朝の校門指導、下校時の校門指導、木曜日の下校指導の交通指導を組織的に行い、交通事故の未然防止に努めている。	26% 56% 19% 0%	3.1 ▲← 3.1 ↘ 3.2 ↙ 3.3 ↘ 3.2 ↙ 3.4						
	3 学校は、毎月の安全点検を確実に行い、修理修繕によって事故・ケガの未然防止に努めている。	15% 67% 11% 7%	2.9 ▽↙ 3.1 ↘ 2.3 ↙ 2.7 ↙ 2.7 ↙ 2.7						
II 誇りを感じる学校・学級集団	4 学校は生徒会を中心として「いじめ防止」に主体的に取り組ませている。(新)	4% 57% 39% 0%	2.6 ↗ 2.3 (新項目)						
III 存在感や成就感を大切にした生徒指導	5 学校は、不登校、問題行動、その他の生徒指導について、指導の方向の明確化と共有を図り、各自の役割を遂行している。	4% 85% 12% 0%	2.9 ▲↖ 3.2 ↘ 3.3 ↘ 3.1 ↘ 3.2 ↘ 3.3						
	6 学校は、情報機器取り扱いについて、生徒会・PTA・警察と連携した取り組みを行っている。	7% 56% 33% 4%	2.7 ▲↖ 2.8 ↘ 2.9 ↗ 2.8 ↗ 2.6 ↘ 2.8						
	7 学校は、いじめアンケート、教育相談、QUテストを活用して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をしている。	28% 68% 4% 0%	3.2 ▲↖ 3.4 ← 3.4 ← 3.4 ↘ 3.6 ↗ 3.4						
IV 豊かな人間性・社会性を育む道徳教育・人権教育	8 あなたは、道徳研修を意欲的に行い、道徳の時間の改善に努めている。	15% 74% 11% 0%	3.0 ↗ 2.8 ↘ 3.0 ↗ 2.7 ↘ 2.9 ↗ 2.8						
V 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育	9 あなたは、篠山の伝統文化(デカンショ、歴史、文化、自然など)を理解し、生徒に伝えようと努力をしている。	4% 23% 46% 27%	2.0 ▲↖ 1.8 ↘ 2.3 ↘ 2.4 ↘ 2.6 ↗ 2.3						
VI 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善	10 あなたは、「篠中授業スタンダード」に基づいた授業をしている。	12% 64% 20% 4%	2.8 ▲← 2.8 ↘ 3.0 ↗ 2.9 ← 2.9 ↗ 2.8						
	11 学校は、予習や復習などの家庭学習に取り組ませている。	12% 42% 42% 4%	2.6 ← 2.6 ↗ 2.6 ↗ 2.5 (新項目)						
	12 学校は、教育支援計画における合理的配慮及び個別の指導計画を見直し、全職員で共通理解をしながら指導を行っている。(新)	8% 69% 23% 0%	2.8 ↗ 2.9 (新項目)						
	13 学校は、授業のユニバーサルデザイン化を図り、「豊かな人間関係づくり」・「伸びる力」の育成に努めている。(新)	4% 60% 36% 0%	2.7 ↗ 2.6 (新項目)						
VII 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール	14 あなたは、爽やかなあいさつができる生徒を育てるために、自ら進んであいさつをしている。	24% 52% 24% 0%	3.0 ▲↖ 2.8 ↘ 3.5 ↗ 3.3 ← 3.3 ↘ 3.4						
	15 学校は、学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・図書だよりなどの発行、ホームページの毎日の更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行っている。	44% 52% 4% 0%	3.4 ▲↖ 3.7 ↗ 3.6 ↗ 3.4 ↘ 3.5 ↗ 3.4						
	16 学校は、学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動・花いっぱい活動を積極的に行っている。	13% 71% 17% 0%	3.0 ▲↖ 3.1 ↘ 3.3 ↗ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3						
	17 学校は、小中連携推進委員会、小中合同研修会、各小学校への出前授業、体験入学、入学説明会などを通して、小中の相互理解に努めている。	28% 72% 0% 0%	3.3 ▲↖ 3.1 ↘ 3.4 ↗ 3.1 ↘ 3.4 ↗ 3.3						
VIII まごころで子どもとともに学ぶ教職員組織	18 あなたは、木曜日は定時退庁の日として、18:30までに退庁している。	13% 21% 25% 42%	2.0 ↗ 2.3 ↗ 2.0 ↗ 1.8 ↘ 2.5 ↗ 2.4						
	19 学校は、原則週2回のノーブル活動デーを実行している。	54% 42% 0% 4%	3.5 ▽↖ 3.8 ↗ 3.2 ↗ 3.0 ↗ 2.8 ← 2.8						
	20 あなたは、部活動計画を毎月生徒・保護者に周知している。	29% 63% 8% 0%	3.2 ▲↖ 3.6 ← 3.6 ↗ 3.2 ↘ 3.4 ← 3.4						
	21 あなたは、「職員の申し合わせ事項」を意識して職務を行っている。	0% 67% 33% 0%	2.7 ▲↖ 3.0 ↘ 3.1 ↗ 2.9 ↘ 3.1 ↗ 2.9						

4:あてはまる 3:少しあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

令和2年度学校評価資料 令和2年度後期生徒アンケート

前年比増▽減▲

項目	内容	回答百分率				平均値推移						
		学年	4	3	2	1	R2後期	R2前期	R1後期	R1前期	H30後期	H30前期
I. 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育	1 あなたは、学校の集団生活のルールやマナーを守っている。	1年生	73%	26%	1%	0%						
		2年生	62%	34%	3%	0%						
		3年生	62%	38%	0%	0%						
		全校	66%	33%	2%	0%	3.6 ↘	3.7 ↘	3.6 ←	3.6 ↘	3.5 ←	3.5
		1年生	75%	21%	3%	1%						
		2年生	74%	18%	6%	2%						
		3年生	59%	35%	5%	1%						
		全校	70%	24%	5%	1%	3.6 ←	3.6 ↘	3.5 ←	3.5 ←	3.5 ↘	3.6
II. 誇りを感じる学校・学級集団	3 あなたは、困ったことがあれば相談できる友だちがいる。	1年生	66%	23%	8%	3%						
		2年生	76%	20%	3%	1%						
		3年生	67%	26%	6%	0%						
		全校	70%	23%	6%	1%	3.6 ←	3.6 ↘	3.5 ←	3.5 ↘	3.6 ←	3.6
	4 あなたは、生徒会を中心とした「いじめ防止」に主体的に取り組んでいる。	1年生	37%	34%	24%	6%						
		2年生	32%	44%	20%	3%						
		3年生	40%	44%	13%	2%						
		全校	36%	41%	19%	4%	3.1 ←	3.1 (新項目)				
III. 存在感や成就感を大切にした生徒指導	5 あなたは、いじめは絶対に許されないと考えている。	1年生	83%	14%	2%	1%						
		2年生	81%	19%	0%	0%						
		3年生	89%	10%	1%	0%						
		全校	84%	15%	1%	0%	3.8 ↘	3.9 ↘	3.8 ←	3.8 ↘	3.9 ↘	3.8
	6 あなたは、いじめを受けたり、いじめを見かけたら、誰かに相談する。	1年生	65%	26%	5%	5%						
		2年生	66%	31%	3%	0%						
		3年生	65%	31%	3%	1%						
		全校	65%	29%	4%	2%	3.6 ↘	3.5 ←	3.5 ←	3.5 ↘	3.6 ←	3.6
	7 学校(先生)は、生徒の悩みに不安に対して、親身になって相談に乗ってくれる。	1年生	56%	30%	12%	3%						
		2年生	55%	36%	7%	2%						
		3年生	54%	40%	5%	1%						
		全校	55%	35%	8%	2%	3.4 ↘	3.3 ←	3.3 ←	3.3 ↘	3.6 ←	3.6
	8 インターネットにつながる情報機器を持っている人にたずねます。あなたは、「篠山中学校情報機器取り扱い三箇条」を守っています。	1年生	39%	46%	12%	3%						
		2年生	36%	39%	18%	7%						
		3年生	35%	46%	14%	4%						
		全校	37%	43%	15%	5%	3.1 ↘	3.2 ↘	3.6 ←	3.6 ↘	3.1 ←	3.1
IV. 豊かな人間性・社会性を育む道徳教育、人権教育	9 あなたは、道徳の時間に、自分の考えを言葉で表現し、人と交流している。	1年生	49%	43%	6%	2%						
		2年生	40%	54%	6%	0%						
		3年生	41%	44%	12%	3%						
		全校	43%	47%	8%	2%	3.3 ↘	3.2 ↘	3.1 ←	3.1 ↘	3.2 ←	3.2
	10 あなたは、道徳の時間に自分の生活や生き方を見つめふりかえることができています。	1年生	54%	37%	8%	1%						
		2年生	48%	42%	9%	1%						
		3年生	45%	39%	13%	2%						
		全校	49%	39%	10%	1%	3.4 ↘	3.2 ←	3.2 ←	3.2 ←	3.2 ←	3.2
V. 将来や社会の系口をつかむキャリア教育	11 あなたは、ふるさと篠山の良さ(自然、文化、歴史)を知っています。	1年生	50%	32%	14%	4%						
		2年生	41%	42%	13%	4%						
		3年生	36%	49%	12%	3%						
		全校	42%	41%	13%	4%	3.2 ←	3.2 ↘	3.1 ←	3.1 ↘	3.1 ←	3.1
	12 あなたには良いところがある。	1年生	35%	39%	15%	11%						
		2年生	43%	43%	7%	8%						
		3年生	28%	52%	18%	2%						
		全校	36%	44%	13%	7%	3.1 ←	3.1 ←	3.1 ←	3.1 ↘	3.0 ←	3.0
VI. 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善	13 あなたは、予習や復習などの家庭学習に取り組んでいます。	1年生	21%	42%	25%	11%						
		2年生	36%	33%	24%	8%						
		3年生	45%	36%	12%	7%						
		全校	34%	37%	21%	9%	3.0 ↘	3.1 ↘	2.8 ←	2.8 ←	—	—
	14 あなたは、「対話」が深い学びへつながるように「書く」「表現する」「修正する」などの工夫をしている。	1年生	29%	49%	21%	1%						
		2年生	32%	50%	16%	2%						
		3年生	22%	49%	21%	7%						
		全校	28%	49%	19%	3%	3.0 ↘	3.1 (新項目)				
	15 学校の授業は、最初に「目標」が示され、最後に授業を振り返る「まとめ」がされています。	1年生	52%	34%	13%	1%						
		2年生	38%	47%	14%	2%						
		3年生	24%	55%	18%	2%						
		全校	39%	45%	15%	2%	3.2 ↘	3.3 ←	3.3 ←	3.3 ↘	3.2 ←	3.2
	16 学校の授業の中には、個人で考えるところ、ペア・グループで話し合うところ、それを発表するところがある。	1年生	75%	18%	5%	2%						
		2年生	58%	32%	9%	0%						
		3年生	53%	36%	8%	3%						
		全校	62%	29%	7%	2%	3.5 ←	3.5 ↘	3.7 ←	3.7 ↘	3.6 ←	3.7
	17 授業が楽しく分かりやすい。	1年生	41%	42%	12%	5%						
		2年生	29%	49%	17%	6%						
		3年生	24%	56%	15%	5%						
		全校	31%	49%	14%	6%	3.1 ←	3.0 ↘	3.1 ←	3.1 ↘	3.0 ←	3.1
	18 あなたは、学校の授業の中で、疑問や分からぬことがあるときに尋ねて解決している。	1年生	28%	41%	24%	7%						
		2年生	31%	44%	16%	9%						
		3年生	23%	43%	29%	5%						
		全校	27%	43%	23%	7%	2.9 ↘	3.0 ↘	2.9 ←	2.9 ↘	2.8 ←	2.8
VII. 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール	19 あなたは、学校、地域でさわやかな元気のよいあいさつができる。	1年生	57%	37%	6%	0%						
		2年生	50%	45%	4%	1%						
		3年生	36%	52%	12%	0%						
		全校	48%	44%	7%	0%	3.4 ←	3.4 ↘	3.3 ←	3.3 ↘	3.2 ←	3.3

4:あてはまる 3:少しあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

*回答百分率については少数点以下を四捨五入して表示しているため合計が100にならない場合があります

令和2年度学校評価資料 令和2年度後期保護者アンケート

前年比増△減▲

項目	内容	回答百分率				平均値推移						
		学年	4	3	2	1	R2後期	R2前期	R1後期	R1前期	H3O後期	H3O前期
I. 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育	1 お子様は、登下校中など、交通安全に気をつけています。	1年生	75%	24%	1%	0%	▽					
	2 ご家庭では、お子様が規則正しく生活ができるようにしつけをしている。	2年生	69%	25%	4%	2%	▽					
	3 学校は、安全・安心な学校生活が送れるように、環境整備に努めている。	3年生	75%	24%	1%	0%	3.7 ← 3.7 ↘ 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5					
		全校	73%	24%	2%	1%	3.7 ← 3.7 ↘ 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5					
		1年生	48%	43%	9%	0%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		2年生	46%	43%	11%	1%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		3年生	38%	48%	11%	4%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		全校	44%	45%	3%	0%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		1年生	61%	38%	1%	0%	3.5 ← 3.5 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		2年生	50%	46%	3%	1%	3.5 ← 3.5 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
II. 誇りを感じる学校・学級集団	4 お子様は、楽しく学校に行っている。	3年生	53%	45%	3%	0%	3.5 ← 3.5 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
	5 お子様が部活動や校外のクラブチームで活動している保護者にお尋ねします。お子様は、部活動やクラブチームの活動に意欲的に取り組んでいます。	1年生	82%	11%	3%	3%	3.5 ← 3.6 ↘ 3.4 ← 3.4 ↘ 3.5 ← 3.5					
		2年生	68%	21%	3%	8%	3.6 ↗ 3.7 ↘ 3.6 ← 3.6 ↘ 3.5 ↗ 3.6					
		3年生	60%	30%	5%	5%	3.6 ↗ 3.7 ↘ 3.6 ← 3.6 ↘ 3.5 ↗ 3.6					
		全校	71%	20%	4%	6%	3.6 ↗ 3.7 ↘ 3.6 ← 3.6 ↘ 3.5 ↗ 3.6					
	6 学校は、生徒会を中心として「いじめ防止」に主体的に取り組んでいる。	1年生	39%	49%	12%	0%	3.2 ↗ 3.3 (新項目)					
III. 存在感や成就感を大切にした生徒指導 IV. 豊かな人間性・社会性を育む道徳教育・人権教育	7 学校は、「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応、早期解決に努めている。	2年生	31%	47%	18%	4%	3.1 ↗ 3.2 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0					
	8 お子様は、「いじめ」を受けたり、見たり、聞いたりすると、だれかに相談している。	3年生	36%	45%	16%	3%	3.1 ← 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.1 ← 3.1					
	9 学校は、子どもや保護者の悩み・思いをしっかり聞いています。	1年生	32%	47%	18%	3%	3.0 ↗ 3.1 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 3.0					
	10 お子様に情報機器(携帯電話、スマホ、コンピュータなど)を持たせておられる方に尋ねます。ご家庭では、情報機器の使い方について、家庭で約束を決め、守らせています。	2年生	29%	39%	27%	6%	3.0 ↗ 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.0 ← 3.1					
		3年生	27%	40%	23%	11%	3.0 ↗ 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.0 ← 3.1					
		全校	31%	42%	19%	8%	3.0 ↗ 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.0 ← 3.1					
		1年生	41%	49%	8%	2%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		2年生	42%	51%	6%	1%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		3年生	46%	48%	6%	0%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
		全校	43%	49%	7%	1%	3.3 ← 3.3 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.3 ← 3.3					
V. 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育	11 お子様は、人が困っていたら、進んで助けたり手伝ったりすることができる。	1年生	18%	58%	24%	0%	3.2 ← 3.3 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0					
	12 お子様は、ふるさと緑山の良さ(自然、文化、歴史)を知っている。	2年生	26%	50%	15%	9%	3.2 ← 3.0 ↘ 2.8 ← 2.8 ↘ 3.0 ← 2.9					
		3年生	24%	51%	20%	5%	3.2 ← 3.0 ↘ 2.8 ← 2.8 ↘ 3.0 ← 2.9					
		全校	23%	53%	19%	5%	3.2 ← 3.0 ↘ 2.8 ← 2.8 ↘ 3.0 ← 2.9					
		1年生	20%	57%	18%	5%	3.0 ← 3.0 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 3.0					
		2年生	30%	54%	14%	2%	3.0 ← 3.0 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 3.0					
VI. 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善	13 学校は、生徒の自己理解、将来の職業、生き方等について、適切な進路指導を行っている。	3年生	16%	64%	18%	1%	3.0 ← 3.0 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 3.0					
	14 学校は、楽しく分かる授業になるように工夫している。	1年生	28%	49%	20%	3%	3.0 ← 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.1 ← 3.1					
	15 学校は、基礎学力が定着するように取り組んでいます。	2年生	25%	51%	22%	3%	3.0 ← 3.1 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
		3年生	26%	57%	10%	7%	3.0 ← 3.1 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
		全校	27%	52%	16%	4%	3.0 ← 3.1 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
		1年生	14%	38%	29%	19%	3.0 ← 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.1 ← 3.1					
		2年生	19%	37%	35%	9%	3.0 ← 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.1 ← 3.1					
VII. 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール	16 あなたは、予習や復習などの家庭学習に取り組んでいる。	3年生	24%	37%	24%	15%	3.0 ← 3.1 ↘ 3.0 ← 3.0 ↘ 3.1 ← 3.1 (新項目)					
	17 学校は、授業の疑問や分からぬことをていねいに教えてくれる。	1年生	25%	43%	27%	4%	2.9 ← 3.0 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 2.9					
		2年生	25%	51%	18%	6%	2.9 ← 3.0 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 2.9					
		3年生	18%	57%	21%	4%	2.9 ← 3.0 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 2.9					
		全校	23%	51%	22%	5%	2.9 ← 3.0 ↘ 2.9 ← 2.9 ↘ 3.0 ← 2.9					
		1年生	38%	47%	14%	1%	3.2 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.4 ↘ 3.3					
		2年生	44%	40%	15%	1%	3.2 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.4 ↘ 3.3					
		3年生	29%	56%	14%	1%	3.2 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.4 ↘ 3.3					
VIII. 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール	18 お子様は、家庭や地域の中で、気持ちのよいあいさつができる。	全校	37%	47%	15%	1%	3.2 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2 ↘ 3.4 ↘ 3.3					
	19 学校だより、学級だより、保健だより、ホームページなどを通して、学校の様子がよく分かる。	1年生	54%	39%	7%	0%	3.4 ← 3.4 ↘ 3.3 ← 3.3 ↘ 3.4 ← 3.4					
		2年生	44%	49%	6%	0%	3.4 ← 3.4 ↘ 3.3 ← 3.3 ↘ 3.4 ← 3.4					
		3年生	45%	42%	11%	2%	3.4 ← 3.4 ↘ 3.3 ← 3.3 ↘ 3.4 ← 3.4					
		全校	48%	44%	8%	1%	3.4 ← 3.4 ↘ 3.3 ← 3.3 ↘ 3.4 ← 3.4					
V. 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育	20 学校は、保護者や地域の意見を真摯に受け止め、連携を積極的に進めている。	1年生	34%	55%	7%	4%	3.1 ← 3.2 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
	21 ご家庭では、社会生活のルールやマナーが守るようにしつけをしている。	2年生	31%	51%	15%	3%	3.1 ← 3.2 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
		3年生	26%	61%	11%	2%	3.1 ← 3.2 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
		全校	30%	56%	11%	3%	3.1 ← 3.2 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
		1年生	52%	43%	5%	0%	3.1 ← 3.2 ↘ 3.1 ← 3.1 ↘ 3.2 ← 3.2					
VII. 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール	22 家庭内で親子でよく対話している。	2年生	52%	40%	7%	1%	3.4 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5					
		3年生	49%	44%	4%	3%	3.4 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5					
		全校	57%	36%	4%	2%	3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5					
		1年生	60%	37%	1%	1%	3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5 ← 3.5					

4:あります 3:少しあります 2:あまりあります 1:あきらめない
※回答百分率については少員以下を四捨五入して表示しているため合計が100%にならない場合があります